

昔の「桃太郎」を読んでみよう！①

問題 1

Aの図はある桃太郎の誕生の場面です。空欄のくずし字を読んでみよう。

昔々、あるところに子どもを授かりたい夫婦がいました。

御香宮神社でお願いをしたところ、

神功皇后が現れ、その夫婦に桃を手渡しました。

その桃を持ち帰ったところ……、

いりくうらてりてさく  
 ①  
 こもたくましき男子とあり  
 ②  
 ③

さ	此						
も	も	*					
た	ゝ		①				
く							
ま	し						
し	ら						
き	て			②			
男							
子	し						
と	で						
	きて						
り。							

\*「ゝ」…「踊り字」と呼び、前の文字をくり返すときに使用します。  
 \*御香宮神社：京都市伏見区の神社。主祭神は神功皇后。



A

問題 2

B・Cの図は桃太郎の仲間です。空欄を埋めて名前を読んでみよう。

ある節分の夜、桃太郎の姉が鬼にさらわれてしまいました。姉を助けるため鬼退治にかけた桃太郎が住吉大社にお参りしたところ、二人の仲間があらわれます。

ひ  
④  
⑤  
ぎ  
の  
せ  
い

い  
⑥  
し  
の  
せ  
い

⑥  
ひ  
の  
せ  
い

ひ  
の  
せ  
い



ちょんまげに注目！

年  
組  
番  
名前

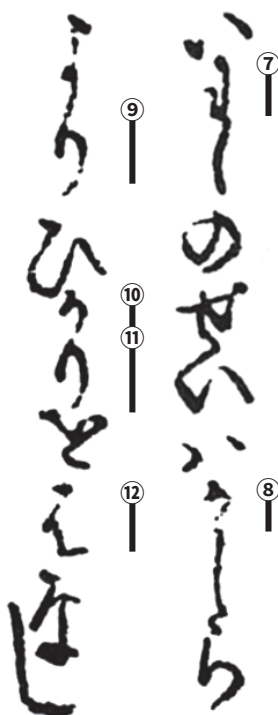
問題3

Dの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

桃太郎とその仲間二人は鬼たちを退治します。

仲間の一人は右手で鬼を押しているように見えますが、

もう一人は……、



よ	い					
⑨	⑦					
ひ	し					
⑩	の					
	せ					
⑪						
を	い					
⑫	は、					
な						⑧
し、	し					
	ら					

D



ヒント

右側の男のちよんまげからは何が出てくる？

問題 4

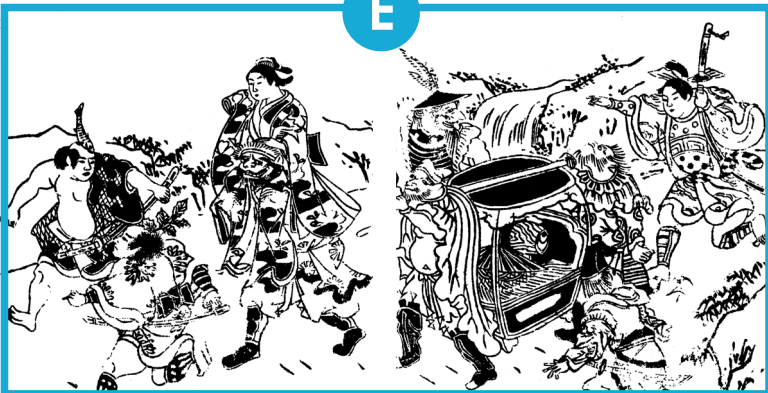
Eの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

降参こうさんした鬼おには、宝物たからものと一緒にいっしょに、姉あねを肩車かたぐるまで送り届けました。  
 物語ものがたりの最後さいごには、日本にほんのある風習ふうしゅうの起源きげんについて記しるされます。

ちぢんのあひひらぎ  
 いまど門13なまき屋14  
 けしふら16り17まる15と名

此	い	せ
時	<small>13</small>	つ
よ	し	ぶ
り	を	ん
<small>16</small>	門 <small>もん</small>	の
じ	戸 <small>こ</small>	夜
ま	<small>14</small>	ひ
<small>17</small>	さ	い
と	<small>15</small>	ら
か	事、	ぎ
や。		

E



年  
組  
番  
名前

## 解答

問題 1 … ①か(可)、②あ(阿)、③な(奈)。

「この桃、頭・手足できて、さもたくましき男子となり」(この桃は頭・手足が現れて、いかにも立派な男の子となった。)

問題 2 … ④い(以)、⑤ら(良)、⑥わ(王)。

B 「柁の精」 C 「鰯の精」

問題 3 … ⑦わ(王)、⑧か(可)、⑨り(利)、⑩か(可)、

⑪り(利)、⑫は(者)。

「鰯の精は、頭より光を放し、」(鰯の精は、頭から光を放って、)

問題 4 … ⑬わ(王)、⑭に(爾・尔)、⑮す(須)、⑯は(者)、

⑰る(留)。

「節分の夜、柁鰯を門戸にさす事、この時より始まるとかや」(節分の夜、柁鰯を家の出入口に挿すことは、この時から始まったのだとか。)

## 教材について

ねらい…くずし字を学びながら、江戸時代の桃太郎の二次創作を読むことで、古典に親しむ。

時間配分…35分。授業時間…5分(くずし字の説明)、15分(問

題 1・2)、15分(問題 3・4)。

対象教科…国語、社会、書写・書道

## 問題解説

この教材は、江戸時代に上方(京都・大阪)で出版された桃太郎です。有名な昔話ですが、この桃太郎のあらすじは、現代のものとは随分異なります。それもそのはず、これは桃太郎を脚色した作品なのです。桃太郎は確かに登場し、仲間と一緒に鬼退治をしますが、ユニークな設定や内容に変更されています。そのため、古典を苦手に思っている方にも、楽しんでもらえるのではないかと思います。

## 問題 1

舞台は京伏見。桃山近辺に住んでいた夫婦には娘が一人いましたが、男の子を授かりたいと思い、御香宮神社に祈念します。すると、祭神の神功皇后が現れて、大きな桃を一つ夫婦に授けます。夫婦が持ち帰ると、その桃に驚くような変化が起きます。

問題 1 は桃太郎の誕生場面からの出題ですが、答えは「この桃、頭・手足できて、さもたくましき男子となり」

です。なんと、桃から頭と手足が現れて、男の子になったというのです。図Aの中央にいるのがその桃太郎です。桃太郎の誕生には、桃を食べて若返った夫婦の間に子どもが生まれる「回春型」と、桃のなかから子どもが生まれる「果生型」とがあります。これも「果生型」に分類はできませんが、桃自体が男の子になるという面白い設定になっています。

①は「か(可)」、「よく出てくる字です。②は「あ(阿)」ですが、旁が①と同じ「可」ですね。③は現代の字と字母(仮名の元になった漢字)が同じ「な(奈)」です。

## 問題2

桃太郎と名付けられた男児は一年で一〇年分ほど成長します。ある節分の夜、夫婦と桃太郎が恵方の神の参拝に出かけたところ、豆を拾って食べようとやってきた蓬菜の島の鬼に、桃太郎の姉は一目惚れをされ、さらわれてしまいます。桃太郎は姉を助け出すため、鬼ヶ島へ出かけます。

鬼退治のお供といえ、猿・雉・犬ですが、**問題2**はこの桃太郎のお供を答えるものです。答えはB「**柀の精**」とC「**鰯の精**」です。図B・Cはお供の挿絵です

が、鬚が葉と魚になっていることが、ヒントになるでしょう。桃太郎が神功皇后にならって摂津国の住吉大明神(現・大阪市住吉区)に必勝を祈願すると、この二人が現れ、桃太郎を助太刀することになります。

なぜ、柀と鰯がお供なのか。それはこの「桃太郎」が狂言「節分」を踏まえていることが関係します。狂言「節分」は、夫が出雲大社へ大晦日の参籠へ出かけ、留守を守っている妻のところへ、蓬菜の島の鬼が節分の豆を拾って食べようとやってくるところから始まります。狂言「節分」で鬼が謡う小歌が、この「桃太郎」に引用され、桃太郎の姉の機嫌を取ろうと踊る鬼は、狂言「節分」で女の気を引こうとする鬼の姿そのものです。つまり、この「桃太郎」は、従来の桃太郎の話に、狂言「節分」を掛け合わせたうえで、さらにオリジナルの脚色を施しているのです。節分には、写真のような「柀鰯」と呼ばれる焼いた鰯の頭と柀を戸口に指す魔除けの風習が今も伝わりますが、そこからこの「桃太郎」では、お供が柀と鰯となっているのです。なお、「柀鰯」



は狂言「節分」にも登場します。

④は「い(以)」、⑤は「ら(良)」ですが、いずれも現代の字と字母が同じです。⑥は「わ(王)」ですが、「は(者)」と似ているので注意をしましょう。

## 問題3

柗と鰯の精をお供に、桃太郎は鬼ヶ島へと乗り込みます。お供の活躍もあって、鬼の手下たちは皆降参をします。桃太郎は鬼の大将と力くらべて勝負をしますが、すべて桃太郎の勝利となります。

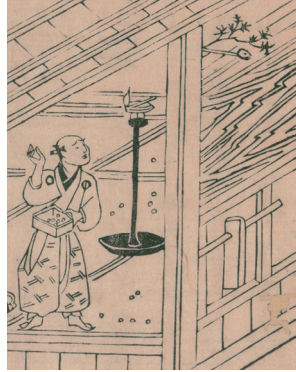
**問題3**は鰯の戦い方からの出題です。柗の精は、固くてトゲトゲした柗の葉っぱを手裏剣のように投げつけていますが、鰯の精とタッグを組んで戦っています。答えは「鰯の精は、頭より光を放し」です。鰯は頭から光を放っているのです。熱光線ではなく、強い光を当て、鬼が立ちくらんでいるところへ、柗が葉っぱで目口鼻をつくとという戦法です。死者がでない比較的穏やかな戦い方と言えるでしょう。では、なぜ鰯は光を放っているのでしょうか。それは、鰯が寿司屋で「光り物」と呼ばれるように、青白く光る魚であることから連想されたのだと考えられます。

⑦は「わ(王)」。⑧と⑩は「か(可)」ですが、①⑥の復習問題ですね。⑨と⑪は「り(利)」です。⑫は「は(者)」で、「え(衣)」や「み(三)」と間違えやすいので注意が必要です。

## 問題4

鬼の大将は力くらべをする際、もし自分が負けたら、桃太郎の姉だけでなく、鬼の宝物である、身につけると姿を隠せる「隠れ笠・隠れ蓑」や、思いのままに何でも出せる「打出の小槌」を差し出すと約束をしていました。取り決め通り、桃太郎は鬼からそれらの宝物を受け取ります。鬼の大将は姉を肩車し、鬼の家来らは宝物を輿に乗せ、桃太郎の国元へ送り届けるのです。図Eは国へ帰る桃太郎一行の様子が描かれています。なお、隠れ笠・隠れ蓑・打出小槌は、狂言「節分」で鬼が女に渡した宝物でもあります。

物語の最後には、日本のある風習の起源について記されていますが、**問題4**はそれを問うものです。答えは「節分の夜、柗鰯を門戸にさす事、この時より始まるとかや」です。節分の夜に、柗鰯を家の出入口に挿すことは、この時から始まったらしいと記していま



戸口に挿された柀燭（右上）  
国立国会図書館蔵『案内者』  
DOI：10.11501/255419

す。もちろん

これはフィク

ションですが、

節分の夜に

は、図版（『案内

者』寛文二年

一六六二刊）

のように、家の出入口に柀燭を挿し、「豆撒きがされてい

ました。このように節分と柀・燭は関係が深いのです。

燭の頭のようにつまらないものも、それを信仰する人に

は大事であるという意味で使われる、「燭の頭も信心か

ら」ということわざがありますが、これは節分の風習か

ら生まれたことを実感することができます。

⑬「わ(王)」は復習、⑭「に(爾・尔)」は頻出の字、

⑮「す(須)」は「つ(徒)」と似ているので注意が必要です。

また、⑯「は(者)」も復習です。⑰「る(留)」は、「か

(可)」「や」「な(奈)」と似ているので、気をつけましょう。

このように、くずし字や和本を用いることで、古典文

学とは教科書に載っているものだけではないことを学ぶ

ことができます。また、いつの時代も魅力的な作品は新

たな作品を生み出すことも感じられるでしょう。この桃

太郎は、古典文学の豊かさや楽しさを学ぶことができる、

ユニークな古典教材の一つと言えます。

### 教材解説

底本は国立国会図書館所蔵『絵本集艸』（請求番号

E18196）。本資料はさまざまな草双紙（江戸時代の絵本の

総称）を文字通り集めた絵本の叢書です。この「桃太郎」

もその一部です。底本は「大惣」と呼ばれる江戸時代を

代表する貸本屋である大野屋惣八の旧蔵本でもあります。

中野三敏・肥田皓三編『近世子どもの絵本集上方篇』（岩

波書店、一九八五年）に影印と翻刻が収められていますの

で、全文はそちらでご確認ください。

なお、本教材を使用した授業実践報告の詳細は、加藤

直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の

試み―日本近世文学会による出前授業」・同「くずし字

による古典教育の試み(5)―江戸時代の「桃太郎」を読む

補遺」（参考文献一覧参照）をご覧ください。

（担当：加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸）